

EUREKA	世界最先端の太陽風計算への挑戦	庄田宗人	533
	宇宙マイクロ波背景放射 B-mode 偏光観測の現在と未来: POLARBEAR 実験と次の 10 年間の展望	茅根裕司	542
	QP 輝線画像抽出法: 誰でもできる面分光 植田稔也・三戸洋之・大塚雅昭・中田好一		552
シリーズ: 天文学者たちの昭和	海部宣男氏ロングインタビュー 第 6 回: 暗黒星雲分子サーベイ	高橋慶太郎	563
書評	新天文学ライブラリー 第 6 巻 宇宙マイクロ波背景放射	柏野大地	574
雑報	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書 42nd COSPAR Scientific Assembly 2018 (COSPAR 2018)	小野彰子	575
	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書 TIME FOR ACCRETION	大村匠	576
	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書 The 45th Annual European Meeting on Atmospheric Studies by Optical Methods	大澤亮	578
	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書 ESO Workshop: A revolution in stellar physics with Gaia and large surveys	ジェン ミンジェ	580
	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書 5th LOFAR data processing school 2018	酒見はる香	582
寄贈図書			584
月報だより			584

#### 【表紙画像説明】

太陽風の駆動にはローレンツ力を復原力とするプラズマの波動=アルペーン波が重要な役割を果たすと考えられています。

太陽風中のアルペーン波が伝播しながらどのように乱流状態に遷移するかは未解明でしたが、これまでにない大規模な数値シミュレーションによりその物理が明らかになりました。上図は太陽から離れる方向へ伝播するアルペーン波、下図は太陽へ向かう方向へ伝播するアルペーン波の空間分布を表します。太陽へ向かうアルペーン波の方が細かな構造を持つことがシミュレーションから予想され、将来の探査機観測 ( $r \sim 10R_{\odot}$  に到達予定) による検証が期待されています。

#### 【表紙デザイン】

今月は太陽の様子です。まだまだ暑い日が続く中、追い打ちをかけるように表紙も暑そうなデザインになってしまいました。来月からは涼しげなデザインになると思います。